分析　速報

１級第５回　学科試験問題の傾向・レベル分析と今後の対策

【総評】　（第４回との比較）

	分析	対象問題	対策
A	各科目・範囲ごとの出題数に、変化はみられない		①②③④参照
B	「これが１級問題か」という簡単な問題がみられる	問２、問 13、問 15、問 36 問 42、問 46	①②③④参照
C	各選択肢の文章は、全体的に前回より長くなっている	問 25、問 39	③④参照
D	「試験の科目・範囲・細目」にない理論などの細かい知識・数字や各論に踏み込んだ内容の出題が多い	問 16、問 28、問 29、問 32	②③④参照
E	１科目、３科目、４科目は例年並みの内容とレベルであり、５科目・６科目・７科目は昨年よりも易しくなっている		③④参照
F	「日本語」やその「語感」で正解肢がわかる出題がみられる	問 21、問 24、問 34、問 41	⑤参照

【科目・範囲ごとの出題数（(　）は第４回からの増減)、難易度】

科目	範囲	出題数（　）	難易度
１①	社会・経済的な動向とキャリア形成支援の必要性の認識	２（＋１）	中が２問
１②	キャリア・コンサルティングの役割の理解	２（±０）	易が２問
１③	キャリア・コンサルティングを担う者の活動範囲と義務	１（－１）	易が１問
２①	キャリアに関連する理論の理解	３（±０）	中が２問、易が１問
２②	カウンセリングに関連する理論の理解	３（±０）	難が１問、中が２問
２③	自己理解に関する理解	２（±０）	中と易が各１問
２④	仕事・職業に関する理解	２（±０）	易が２問
２⑤	職業能力開発に関する理解	２（±０）	難と中が各１問
２⑥	雇用管理（人事管理・労務管理）に関する理解	３（±０）	難が１問、中が２問
２⑦	労働市場に関する理解	２（±０）	中と易が各１問
２⑧	労働法規、社会保障制度に関する理解	２（±０）	難と中が各１問
２⑨	学校教育制度、キャリア教育に関する理解	１（±０）	易が１問

2⑩	メンタルヘルスに関する理解	3（±0）	難が 1 問、易が 2 問
2⑪	ライフステージ、発達課題に関する理解	2（±0）	難と中が各 1 問
2⑫	転機に関する理解	1（±0）	易が 1 問
2⑬	相談者の類型的・個人的特性に関する理解	1（±0）	中が 1 問
3①	基本的スキル	2（±0）	中と易が各 1 問
3②	相談実施過程において必要なスキル	2（±0）	中と易が各 1 問
4①	キャリア形成、キャリア・コンサルティングに関する教育、普及活動	2（±0）	中と易が各 1 問
4②	環境への働きかけの認識と実践	2（±0）	易が 2 問
4③	ネットワークの認識と実践	1（±0）	易が 1 問
4④	自己研鑽・スーパービジョン	1（±0）	易が 1 問
4⑤	キャリア形成支援者としての姿勢	1（±0）	易が 1 問
5	グループアプローチ	2（±0）	中と易が各 1 問
6	教育指導	2（±0）	中と易が各 1 問
7	事例指導	3（±0）	易が 3 問

【今後の勉強への指針】

	対　策
①	合格ライン（70 点）を確実にクリアするために、「毎回出題される」「頻出の基本的・基礎的な内容」を確実に理解し、得点する
②	「今回初めて出題された範囲」や「細かい数字」にとらわれるよりも、「1 級キャリア・コンサルティング技能士」が実務を行う上で必要な、基本的かつ基礎的知識を中心に習得する
③	「過去問」とともに「キャリアの赤本」を活用し、必ず出題される「頻出分野」や「得点源となる科目・範囲・細目」の内容を把握して確実に得点できるようにしておく
④	学科試験対策用テキストである「キャリアの青本Ⅱ」を活用し、基本的・基礎的な知識の正確かつ「確実な定着」を得る
⑤	試験に慣れて、「日本語の語感による正答（例：必要がない、必ず等）発見」のテクニックや時間配分の技術、ケアレスミスをしない方法を体得する 例：「最適な」「だけ」「かならず」「のみ」・・等　強調する語彙や決めつける語彙は要注意！

以上

一般社団法人　1 級キャリア・コンサルティング技能士の会